

授業科目名：デザイン方法論

科目コード	10X401
配当学年	修士課程・博士後期課程
開講年度・開講期	後期
曜時限	金曜 4 時限
講義室	C3-講義室 4a
単位数	2
履修者制限	無
授業形態	講義
使用言語	日本語
担当教員 所属・職名・氏名	中小路久美代(学際融合教育研究推進センター) 三浦研 牧紀男 神吉紀世子

授業の概要・目的

21 世紀を迎えてデザインが問い直されている。単に人工物を作ればよかった時代は終わり、今日のデザインはプロセスを含めて、豊かな経験やつながりを創り出す行為にまで広がっている。本講では、デザイン方法を概観したうえで、防災デザイン、医療福祉デザイン、ソフトウェアとコンピューティング、地域デザインの観点からデザイン方法論について解説する。防災デザインでは、津波・河川氾濫の浸水エリアを示したハザードマップ、避難のためのピクトグラム、警報の色レベル、災害に強い 都市デザイン等々、社会の安全を守るための様々なデザインが存在する。アフォーダンス、リスクコミュニケーションという観点から防災に関わるデザインのあり方について解説する。医療福祉デザインでは、使われ方調査、行動観察調査など、エビデンスに基づくデザイン方法の実例や、障がい者の環境のあり方、認知症に対応した環境のあり方、ランドスケープなど、生命、身体、健康に関連した建築、環境デザインの方法について解説する。ソフトウェアデザインでは、デザインの素材としてのソフトウェアとコンピューティングを、歴史的な発展過程を交えて解説する。建築分野からの援用を含むソフトウェアの設計、知識共創としてのソフトウェア開発を支える環境とプロセス、ユーザとのインタラクションが駆動するソフトウェアデザインのモデルを解説する。地域・居住のデザインでは、「居住の持続」が困難な局面にある地域に出会ったときの支援のデザインを論じる。居住とは極めて総合的かつ普遍的であり、かつ、個々人の尊厳に最も深く関わる対象である。誇り高く生きる人間と地域社会、地域環境のあり方について、部分解にとどまらないデザイン

の思想を考える。講義全体を通じて、建築、地域、都市環境に関連した多様なデザイン方法論を理解し、実践するための基礎的な素養を身に付ける。

成績評価の方法・観点及び達成度

・レポート課題として、①4人の教員の話を通じて「デザイン方法論」を論じる(60%)、②4人の教員うちの1人の話に注目した論考(40%)の2つを出題する。

到達目標

建築、地域、景観、都市のデザイン方法を理解し、実践するための基礎的な素養を身につける。

授業計画と内容

項目	回数	内容説明
デザイン方法論の基礎	1	講義の予定、デザイン方法論に関わる基礎的理論の概説
防災デザイン	3	命を守るためのデザインの方法・リスク評価の方法と限界・リスクコミュニケーション・ハザードマップ、警報のための色コード
医療福祉デザイン	4	生命、身体、健康に関連した建築環境デザイン・介護施設の環境の変遷と人権・障がい者施設・ランドスケープデザイン・医療施設の計画事例
ソフトウェア・コンピューティングデザイン	3	人間とのインタラクティビティ 知識活動のインストゥルメント 共創のプラットフォーム
地域・居住のデザイン	4	①つよい摩擦を内在する地域社会へのアプローチ・Dialogue-Based Approach: 公害被害地域(水俣、西淀川)に学ぶ・参画と個人:Ladder of participation、子どもの参画(R.Hart)、「保存か開発か」不明瞭な論点構造を見抜く ②地域に内在する価値の体系化・Dynamic Authenticity: 地域らしさを動的構造として読む・模擬考察: 現在進行中の地域課題から

教科書

授業は配付プリント、およびプロジェクターによるスライドを用いて行う。

参考書等

参考書は授業中にその都度紹介し、文献リストも追って配布する。

履修要件

とくなし 本講義は吉田キャンパスと桂キャンパスの遠隔講義システムを用いて実施するため、吉田キャンパスでも受講できる。

その他(オフィスアワー等)

オフィスアワー: 質問は随時受け付ける。ただし、E-mail でアポイントをとること。三浦教授 (桂キャンパス C2 棟 204 号室 E-mail: miura@archi.kyoto-u.ac.jp) まで。